

# 翻訳システムの研究

電子情報科 山田 拓登 干場 和哉 得野 大樹

## 背景

音声認識を使用することで、キーボード入力の手間を省くことが可能になる。体の不自由な人でも気軽に利用することができると思った。

## 目的

自分たちの手で音声認識を使用したソフトを作りたいと思い、音声認識を使用した和英翻訳ソフトを作成したいと考えた。

## 方法

音声認識の機能をC言語を使って、自らの手で作ろうと試みたが、かなり厳しいという見解に至ったので、音声認識ソフト「Julius」を使用し、そのあとの処理を作ることにした。

「Julius」を使うことで音声認識の段階を飛ばすことが出来た。入力されたものを、あらかじめ登録しておいたフォルダから探し出して、一致するものがあれば英語で出力するプログラムを作成した。

## 結果

言葉を読み取り英語に翻訳していることがわかる。「ドクリンゴ」という入力が入っても、「apple」と出力される。

```
詳細結果:                詳細結果:
--> <s> りんご:リンゴ:りんご:507 。 --> <s> 毒:ドク:毒:507 りんご:リンゴ
読み方:                    読み方:
--> リンゴ。              --> ドクリンゴ。
apple                       apple
```

## 考察

フォルダから対応するものを探す時、上から探していくため、下のほうにある「ドクリンゴ」が見つけだされない。